在宅療養者等に関わられている介護サービス従事者の皆さまへ

（お願い）

在宅療養をされている方々が、過度の不安を感じることなく計画停電実施に備えた対応、また、計画停電時の対応ができるよう、次の事項を参考に、在宅療養者等の皆さまへ情報提供いただきますよう、御協力をお願いします。

また、在宅療養者・御家族の皆様への周知文を参考例で作成しましたので、必要に応じて内容等を修正し、御活用ください。

１　在宅療養者の皆様の計画停電グループの把握

|  |
| --- |
| １　計画停電に備えるためには、まず、お住まいの地域がどのような計画停電グループになっているかを知っておくことが重要です。２　四国電力から、各戸ごとに、別添のようなお知らせハガキが届いていますので、万が一の計画停電実施に備えて、計画停電グループ及び計画停電スケジュールの御確認をお願いします。３　なお、計画停電グループが不明な場合には、電気料金の明細書に記載されている「お客様番号」で四国電力臨時受付センターに御確認ください。 |

**◆ 四国電力臨時受付センター（専用ダイヤル）　０１２０－４５９－３１１**

**【受付時間】月曜～金曜（祝日を除く）　８時４０分～２１時２０分**

２　主治医など医療機関への相談

計画停電に備えて必要な医療的な対応については、まず、主治医など医療機関に相談していただくようお願いします。

３　代替電源等の確保

計画停電に備えて、バッテリー内蔵等の医療機器を購入するなど、在宅療養者あるいは御家族自身で、できる限りの事前準備をしていただくようお願いします。

４　在宅人工呼吸器等を取扱う医療機器製造販売業者への相談

人工呼吸器に貼付された医療機器製造販売業者等に連絡し、計画停電時のバッテリー等の確保対策の相談をしていただくようお願いします。

５　地域における支援体制の構築

在宅療養者の支援に当たり、医療機関、地域包括支援センター等の関係機関の情報共有、相互応援等が重要となることから、地域の関係機関による支援体制の構築について、御検討いただくようお願いします。

６　香川県計画停電・医療相談窓口

県では、人工呼吸器等を使用する在宅療養患者等の対応に万全を期すため、医療機器メーカーの窓口紹介、自家発電機を有する医療機関に関する情報を提供する相談窓口を設置していますので、上記で対応できない場合等、不明な点があれば、御相談ください。

　　**◆香川県計画停電・医療相談窓口**　（平日の８時３０分から１７時１５分まで）

**電話：０８７－８３２－３８０１**

計画停電実施に備えての対応例、計画停電実施時の対応例について

在宅療養者・ご家族の皆様へ

計画停電の報道等の情報に留意し、政府の「電力需給ひっ迫警報」お知らせサービスへの登録や、四国電力ホームページ等の確認により、電力需給等の計画停電に関する情報収集に努めてください。

想定される対応例の一部をご紹介いたします。参考になさってください。

１　計画停電実施に備えての対応例　　　　　　　　（該当する項目に印を付けてみてください）

(1) 医療機器（在宅人工呼吸器・在宅酸素濃縮器・痰吸引器等）、薬品等に関すること

　　①　主治医、ケアマネージャー等に対応方法を相談、医療機器等の使用方法の確認

②　内蔵バッテリー等の有無、持続時間の確認、内蔵バッテリー等対応機器の準備

　　③　外部バッテリーの充電状況の確認

　　④　足踏み吸引器、手動吸引器、緊急用酸素ボンベの準備

　　⑤　停電等電源異常時に使用機器のアラームが作動するかの確認

⑥　血液透析の予約日時の調整、他の通電医療機関への紹介等について確認

　　⑦　介護用の電動ベッド等は、計画停電実施までに介護が適切にできる高さに調節

　　⑧　医療機関、メーカー等との緊急連絡体制の確認

　　⑨　医療行為等に水を使用する場合は、水道が止まることを想定して水を確保

　　⑩　必要に応じて、発電機の購入、一時入院などの対応を検討

　(2) 通信手段に関すること

　　①　固定電話が通じないことを想定し、携帯電話を十分に充電

　　②　重度障害者用意思伝達装置が使用できないことを想定し、各家庭で確認方法を検討

(3) 移動に関すること

　①　電動車椅子の十分な充電

　②　電動シャッターは、車輌が出られるよう開けた状態で固定

　③　階段昇降機、エレベーターが使用できないことを想定し、適切な場所に移動

**(4) 熱中症対策**（詳細は、別紙リーフレット参照）

　①　充電式扇風機の購入

　②　すだれやカーテン等で部屋の温度上昇防止（風通しのよい場所の確認）

２　計画停電実施時の対応例

(1) 医療機器、薬品等に関すること（在宅人工呼吸器・在宅酸素濃縮器・痰吸引器等）

　①　内蔵バッテリー等による医療機器等の動作の確認

　②　酸素ボンベの残量、流量設定の確認

③　エアマットを使用される方に対しては、褥瘡ができるのを防ぐため体位変換に留意

④　血液透析時間の変更、通電医療機関での透析実施等

⑤　インスリン製剤等の要冷蔵の薬品については、２～３時間程度の停電であれば、冷蔵庫の開閉を最小限にとどめ、冷蔵庫に保管（冷凍庫には入れないこと）

　⑥　緊急時には、直ちに医療機関に連絡

**(2) 熱中症対策**（詳細は、別紙リーフレット参照）

　①　シャワーや濡れタオル、氷枕等で体を冷却

　②　水分や塩分をこまめに補給

　③　充電式扇風機やうちわを利用